

6. 大規模増殖場開発事業調査

調査実施期間：令和5年度

調査実施者：友利昭之助、島袋新功

本県特産のシラヒゲウニを対象とした大規模増殖場を造成するため、昭和53年度に引き続いて調査を行なった。その詳細については「大規模増殖場開発事業調査委託成果報告書一昭和54年度、沖縄県」で別途になされたので、ここでは要約のみを記した。

(1) 流況：残波岬の南で海流瓶を放流した結果、冬期における本島西岸の流況は、北よりの季節風連吹のため、南西方向に流去する。これより、恩納村沿岸域のシラヒゲウニ浮遊幼生は、北西方向からの補給、または、リーフ内に滞留し、当核海域に棲息する産卵ウニに由来する事が考えられる。残波岬以南より補給される可能性は少ない。

(2) シラヒゲウニの状況：シラヒゲウニの産卵期は10～12月、約1カ月の浮遊期を経て水深0～0.5mの浅瀬に底着する。殻径1cmの幼ウニは6月頃に内側礁原斜面や岸側の浅瀬に多くみられる。ウニは成長に伴って生活領域を広げ、10月頃には殻径6cmに達し産卵群に加わる。

(3) 試験礁調査：シラヒゲウニの試験礁への生息がみられた。試験礁は、本県内各海域に設置された試験礁のうち、恩納村沿岸域に設置された試験礁に多くみられた。試験礁への生息は、試験礁の設置場所や試験礁の構造、試験礁の設置時期などによって異なる。試験礁への生息は、試験礁の設置場所や試験礁の構造、試験礁の設置時期などによって異なる。